

## バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル No.129

SABS Journal No. 129

発行日：2021年11月27日

\*URL\*：<http://sabsnpo.org>

当 SABS ジャーナルでは、故奥山典生東京都立大学名誉教授が 2015 年 6 月 13 日のご逝去直前まで毎回様々な分野にわたり溢れる蘊蓄を披露されて居られました。その後、奥山先生のご遺志を継いだ我々が当協会を続けさらに発展させて行くため、毎月の定例会を継続して来ました。定例会ではこれ迄通り専門家の方々に話題を提供して頂き、自由な討論を通じて勉強と親睦を深めて来ています。

前号 (No. 128) では「幸いここ数週間、東京などでは一日の感染者数が急激に減りつつあります。8 月半ばころの感染者数は 5000 人強だったことを考えると劇的に減少・・・」と書き、思い切って 10 月 16 日に第 105 回定例会を開きました。昨年秋に開いて以来丸一年振りに渋谷の八雲クラブに集まったわけです。どれくらいの方々が来られるか心配していましたが、11 人も元気な方々が集まり各自の近況報告とコロナに関する話題を中心に積る話に盛り上がり大盛会となりました。

その後も新規感染者数は減る一方で最近では全国でも 100 人台ということになりました。それで今回も例年通り 12 月 4 日 (土) に忘年会を兼ねた定例会を開くことになりました。

ただ心配な事があります。どうも何故か日本だけが顕著に減少しているらしいのです。今挙げられている理由の一つに第 5 波の最中に接種率がどんどん高くなることで感染者が減ると同時に幸いなことに現在のワクチンが効きにくい別の株が入ってこなかったこと。使っているワクチンが Pfizer/Biontech と Moderna という mRNA 型であること。そして接種率は世界でも最も高いし、特に都市部の老人は 90%にも達しているし、若い人たちも他国に比べて高率であること。厳しいロックダウンはしなかったが皆自粛した国民性も理由として挙げられています。世界ではヨーロッパも他のアジア諸国でも逆に急激に感染者数が増加しています。日本より早く接種やロックダウンを徹底した韓国でも再び感染者が増えている理由には、AstraZeneca ワクチンとか若い人の接種率の低さなども挙げられています。どうなのでしょう。

さらに数日前に新しい変異株の出現が報じられました。南アフリカ起源ということでオミクロン (omicron) とかヌー (ν) とか呼ばれているこの株はスパイクタンパク質に何と 32 ヲ所も変異がある事が分かっています、これまで知られる α 株や δ 株が数カ所の変異だったのとは大きく異なるようです ([SARS-CoV-2 Omicron variant - Wikipedia](#))。問題はこの株が今世界で猛威を振るっているデルタ株に比べて感染力が強いのか弱いのか、重症化率が高いのか低いのか、そして現在有効性が確認され世界中で広く接種されている mRNA ワクチンが同じように効くのかということが今の時点でほぼ不明であることです。今席卷し

ているデルタ株を駆逐するのかなど心配は尽きません。

さていくつかコロナ以外の話題です。コロナの影で最近目につかなくなった感のある重大な医学的問題、ガンです。まず早期発見法です。すい臓がんのような早期発見が難しく発見された時は既に治療が困難になっているガンについては早期発見が重要なのは分かっていたのですが、最近いくつか実用化されつつあるというニュースがありました。一つは線虫による検査です。以前小林英三郎当会理事が話題提供した中で紹介されましたが大学発ベンチャーがよいよ動き始めたようです ([N-NOSE \(エヌノーズ\) | 尿1滴でわかる!線虫がん検査 N-NOSE®](#))。もう一つは同じく尿検査ですが、当ジャーナルでも以前紹介したガン細胞由来のマイクロRNAの検査です。これも大学発ベンチャーです ([「尿中マイクロRNA」がん早期発見、Craifがサービス開始へ \(2 ページ目\) | Beyond Health | ビヨンドヘルス \(nikkeibp.co.jp\)](#))。さらにこれも以前ご紹介したガン由来の Exosome 検査です ([Craif Inc. - Craif の使命は、尿検査による「痛みのない高精度ながん早期発見」の実現です。Craif は人々ががんで命を落とすことのない、新たな社会の構築を目指します。](#))。

治療法にも明るい光が見えました。世界中で以前から研究されてきた無毒化ウイルスに特定ガンの免疫遺伝子を組み込みガン細胞に感染させ、増殖したウイルスがガン細胞を破壊、出てきた大量のウイルスがまたほかのウイルスをやっつけると同時に免疫細胞に抗体を作成させ、これもまたガン細胞を攻撃するという理屈です。既に良い成績が出始めています ([ウイルス療法 | 東京大学医科学研究所附属病院 脳腫瘍外科 \(u-tokyo.ac.jp\)](#))。

次回定例会は 12 月 4 日に開きます。忘年会を兼ねて行いたく開始時間を前回と同じく早めて 1 時とします。通風を良くしマスク着用の上での軽い飲食と自由な会話の場としたいと考えています。話題はコロナ禍などを中心に以下にまとめてみました：

1. 日本で急激に感染者数が減った理由
  - a. 接種率とワクチンの種類
  - b. マスクなど
  - c. 団体行動癖 (?) による一斉自粛
  - d. 第 6 波
  - e. その他
2. 他の国々で逆に増えている理由
3. 南アフリカの変異株について今分かっている事
4. ガンの検査と治療など

皆さまのご参加をお待ちして居ります。

バイオテクノロジー標準化支援協会（SABS）第106回 定例会

日時：2021年12月4日(土) 13時～16時

場所：八雲クラブ（東京都立大学同窓会）

（渋谷区宇田川町12-3 ニュー渋谷コーポラス10階）

演者：出席者全員

話題：コロナ関係など

八雲クラブではパソコンやプロジェクターが使えます。

定例会会場八雲クラブへの道順：

渋谷駅ハチ公交差点から井の頭通りの坂道の右側を東急ハンズの看板目指して上ります。ハンズの手前で右の急坂を登って行き、坂の途中で左に曲がり新しい高層ビルを右にみながら坂道を登り直ぐ左側にある古いマンションがニュー渋谷コーポラスです。入口奥のエレベーターで10階に上ると直ぐ左隣の部屋が八雲クラブです。

**ご注意：** 定例会は、1昨年までは1月～10月まで第4金曜日に開催していましたが、現在は第4土曜日に変更して開催しています。前回は会場の都合で第4土曜日ではなく第3土曜日となりました。なお11月はお休みです。12月は第1土曜日で今回は12/4となったわけです。

このジャーナルはバイオテクノロジー標準化支援協会（SABS）会員だけではなく、広い意味でのバイオテクノロジー関係の方々にも配信しています。現在、このジャーナルを読んで下さる方々は600名近く居られます。殆どの方が奥山先生の関係で先生の広がった人脈に改めて驚いています。ぜひ読者の方々からも話題提供をして下さる方をお待ちしています。当SABSジャーナルのホームページ [https://sabs.sabsnpo.org/sabs\\_j/](https://sabs.sabsnpo.org/sabs_j/) ではジャーナルの最新号を含めたバックナンバーが収録してあります。またお知り合いの方でこのジャーナルを配信希望の方が居られましたら会員である必要はありませんのでぜひ筆者のアドレス [thiyama@athena.ocn.ne.jp](mailto:thiyama@athena.ocn.ne.jp) に直接お知らせください

当協会のもう一つの大きなプロジェクトはインターネットジャーナル「医学と生物学」の発行です。故緒方富雄博士が1942年に創刊した総合学術雑誌を復刊したものです（<https://medbiol.sabsnpo.org/EJ3/index.php/MedBiol/issue/archive>）。創刊号からのバックナンバーも収録しています。

配信停止希望の方は [thiyama@athena.ocn.ne.jp](mailto:thiyama@athena.ocn.ne.jp) にその旨お知らせください。

- ① 配信先アドレス等の登録情報変更も メールにてその旨お知らせください。
- ② バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録ご希望の方もメール下さい。
- ③ ウェブサイトに関するご意見もメールにて頂ければ幸いです。

特定非営利活動法人バイオテクノロジー標準化支援協会

NPO Supporting Association for Biotechnology Standardization (SABS)

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2

URL:<http://sabsnpo.org>.

理事：荒尾 進介、小林 英三郎、田坂 勝芳、松坂 菊生、小川哲朗、川崎博史、檜山 哲夫

監事：堀江 肇

ネット管理：川崎 博史、田中 雅樹